

沖島南の資源保護活動水域におけるシジミ稚貝の生息密度の推移

孝橋賢一・井戸本純一・久米弘人

1. 目的

琵琶湖最大のシジミ漁場である沖島南漁場においては、新たな資源保護の取り組みとして保護区が設定されている。本水域では漁場改善の取り組みのため、湖底耕耘やヒメタニシの駆除が行われ、さらに2020年以降は親貝の移植保護や0.3mm稚貝の放流が行われている。そこで本水域における稚貝の生息状況を調査し、これら取り組みの評価を行うための基礎データとした。

2. 方法

昨年度と同様、2024年12月10日に沖島南の保護区域の内外に設けた18の調査地点(図1)において、採泥面積(22cm×22cm)のスミスマッキンタイヤー型採泥器を用い、底質を採取した。採取した底質から井戸本¹⁾の方法により殻長0.3mm以上4mm以下の稚貝を抽出し、個体数密度を推定するとともに、昨年度の同時期に実施した調査結果と比較した。

3. 結果

調査地点別の採集個体数密度を図2に示した。殻長4mm以下の稚貝の生息密度は468~1,278個/m²の範囲にあり、全体として昨年度より少なかった。

また昨年は南側および西側の調査地点で稚貝の生息密度は高かったが、今年度は場所による偏りなく、分布していた。

さらに沖島南保護区の内側(B2, B3, B5, C2, C5, C3)および外側(A1-A4, B1, B4, C1, C4, D1-D4)で稚貝の生息密度に差は認められなかった(ウィルコクソン順位検定 p<0.05)。



図1 沖島南漁場の保護区における調査地点

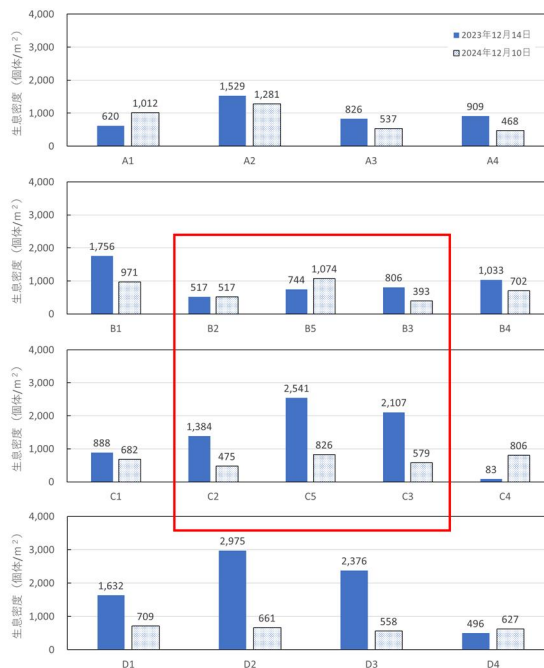


図2 沖島南漁場の保護区における稚貝生息状況

引用文献：1) 井戸本純一(2023)：砂礫サンプルからセタシジミ稚貝を選別するための抽出除去法1(令和5年度滋賀県水産試験場事業報告)